

# 「子どもの体験活動安全講習会」講習内容報告

7月14日（土）13：30～15：00

【講演】 幼少期のこどもと自然体験

文部科学省スポーツ・青少年局 青少年教育官 藤原 一成

はじめに、アイスブレイク（互いを知り、心をほぐす活動）を行った後、講演に入った。  
以下要旨

- ・アイスブレイクは、その後の活動に対する心の準備のために用いられるが、身体の安全と同時に心の安全も確保する必要がある。指導者は参加者の様子を観察しながら、進行や内容を調整し、今回の講習会における目標や規範を共有していく。
- ・学齢期（幼児含む）における教育は学校教育、対して社会教育は0歳から死ぬまで教育を担う。極論を言えば、学校教育以外全ての教育は社会教育であるといっても良い。
- ・体験には大きく分けて直接体験・間接体験・疑似体験の3つがある。高度な情報化社会になり、間接体験・疑似体験の比率が増えた。直接体験を信奉するわけではないが、バランスが大切である。
- ・プレーパークは別名「冒険遊び場」とも呼ばれ、ヨーロッパを中心に1950年代あたりから徐々に増えてきたもので、日本では、1979年に開園した羽根木プレーパークが現在ある冒険遊び場で最初のもの。地面を掘り返したり焚き火をしたりしても構わない。昔の子供たちが、自然の中で自由気ままに遊んでいたように、予想できる多少の危険も含めて、都市公園の中で再現できる、そういう趣旨の公園。その代わり、子供の視点にたって、子供の相談相手としてまた一緒に遊びの工夫に参加してくれる大人のプレーリーダーが常駐している。遊びは、このプレーリーダーの見守る中で行われるというのが、ルール。



7月14日(土) 15:00~17:30

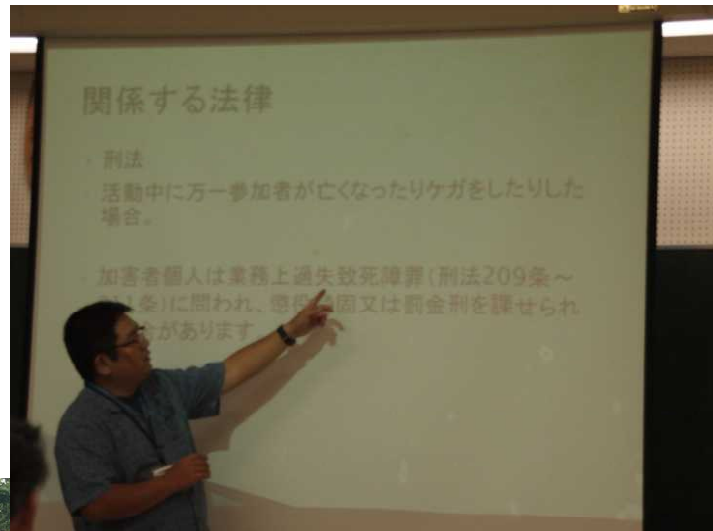
【講義・演習】 自然体験活動に潜むリスク

国際自然大学校事務局長 佐藤 繁一

施設内を実際に散策しながら、危険な箇所を洗い出す演習を行った後、講義を実施。

以下要旨

- ・主催者として自然体験活動を行っていた時、不幸にも主催者（指導者）の過失により事故が起きた場合、主催者及び指導者が責任を負う可能性がある。
- ・指導者がいる自然体験活動で事故が発生した場合は、おもに民法709条により「指導者の過失を原因とする不法行為」として責任が問われる場合がある。
  - ・結果予見義務＝結果を予見する義務をどれだけ果たしたか
  - ・結果回避義務＝危険を回避する義務をどれだけ果たしていたか
- ・指導者としての5つの準備確認
  - ①安全管理マニュアルの整備
  - ②関係者のトレーニング
  - ③保険への加入
  - ④情報の共有
  - ⑤リスクマネージャー（安全管理担当者）の設置
- ・ほとんどの事故が活動を許可した範囲内では発生しておらず、活動の範囲を指示した範囲外で発生している。それもリーダーが活動範囲として指定した範囲を子どもが逸脱し、事故につながっている。



7月14日(土) 18:30~20:45

【講義・演習】 対象理解とリスクマネジメント

国際自然大学校事務局長 佐藤 繁一

講義のあと、「幼児は多くの説明を覚えきれない」という前提の下、グループごとに洗い出したリスクをもとに「活動前の注意事項4点」を作成した。

以下要旨

大人の予測しない行動をとる

- ・我々は「こどもは大人の予測しない行動をとるもの」という前提にたって事業を組み立てなければならない。特に小学校低学年や幼児の活動で起こった裁判の裁判例では「子どもの行動特徴」という言葉が使われることがある。
- ・先を生きる指導者は、川や側溝など顕在危険に目が行きがちだが、こどもにとってはなじみのないものすべてがリスクになり得ることを理解すべき。

大人目線、こども目線

どうしたら危なくないようにできるか～伝達方法（行った言わない～伝わったか～）

○参加者の安全対策

○どこにどんな危険があるか、何が危険か理解できるように説明する。

○成長段階に合わせて、自分で工夫して安全対策をするよう参加者に促す。

○安全対策の視線で参加者を十分に把握していますか？



7月15日(日) 9:00~11:00

【講義・演習】 KYT(危険予知トレーニング)を用いたリスクの洗い出し

高知県子ども会連合会安全教育部 前田 良二

KYTとは興味を持てる視覚的なイラストシート等を利用し、そこに潜む危険を洗い出し、対策を話し合う活動であり、

- (1) 注意：興味を持てる方法なので、「注意」をよく聞いていないと言った子どもが少なくなる。
- (2) 興味・利益：ゲーム的要素があるので、興味がわき、学習効果上がる。
- (3) 欲求：指導者が一方的に指示する「注意」ではなく、それぞれが自分の問題として考えやすく、話し合いが活発になる。
- (4) 記憶：実習によって注意力を喚起し、危険予知・回避能力が高まることから記憶にとどまる。
- (5) 行動：具体的な安全教育であるため、行動へつながる。

等の効果が期待できる。

今回は、イラストに加え、対策を小道具化して、追加できるよう参加者がより積極的に参加できるよう工夫がなされた。



7月15日(日) 11:00~12:00

【講義・演習】 リスクアセスメントのススメ

国立室戸青少年自然の家主幹 片山 貞実

写真による景色を提示し、以下の予見の下、①リスクの洗い出し ②リスクの評価 ③対策の検討 の流れでグループごとに演習を行った。

**前提条件**

今日は幼稚園(30人)の遠足。あなた方スタッフは先に室戸岬到着しました。この後11時30分からここで昼食をとって13時まで過ごします。岬付近を見渡す展望台からの景色をもとに、危険箇所の洗い出し、注意事項、スタッフ配置などを検討しなければなりません。  
あと1時間で子ども達が到着します。急いで作業に入ってください。

洗い出されたリスクについて、その頻度・重大度に応じて分類し、リスクアセスメントシートに類型化し、その後「スタッフの配置や留意事項」「子どもへの説明事項」等の対策を検討した。



		重大度	
		死亡するかも?	病院にいかなきゃ
頻度	よく起こる		衣服が濡れる 蚊 茂みに入って怪我 カヤ等による切傷 転倒・捻挫
	たまに起こる	岩からの落下 車にはねられる	投げた石にあたる 迷子 ウニ ハチ・アブ 小枝 熱中症 木登りをして落ちる 陸上での危険生物
	ごく稀に起こる	誘拐 溺れる 柵(を乗り越えて落ちる) 雷 地震・津波	帽子が飛ばされる 植物によるかぶれ 車酔い おもしろい 雨に濡れる 靴を流す 食中毒 クラゲ 波にさらわれる 観光客とのトラブル

7月15日(日) 12:30~13:30

【講義・演習】 講習のまとめ

国際自然大学校事務局長 佐藤 繁一

講習の結びとして、これまで出た主なキーワードを再度おさらいしながら、講習の総括を行った。

その中で、「伝えると伝わるの違い」つまり、指導者が伝えた事項でも、子どもにとっては聞いていなかったり、理解できなかったりすれば、伝わったことにならない。

そのために、「やって見せ、言って聞かせて、させてみる」くらいの周到さが必要であることを再確認した。

最後は全員が今回の講習をもとにした今後の抱負を発表し、その思いを全員で共有した。

